

得なかった。3週間後、右鎖骨下淋巴節は小指頭大に腫大、生検にて細網細胞肉腫の組織診を得た。Tuberculi Stein Test 隱性、CRP 1.5mg/dl VEMP療法、Lineac 昭射で部分寛解を得るも粟粒間質性肺転移にて死亡した。細網肉腫の脾原発例はまだ稀であるが、培養又は開腹時に周囲又は全身性伝播のため原発巣不明の例も少くない。本例は脾原発を判断する上に伝播期前に施行した ^{67}Ga -scintigraphy が有用であった。

15. ^{67}Ga scintigraphy で特異な肺所見を呈した細網肉腫 3 例

平田 勇三 熊野 町子
榎林 和之
(兵庫がんセンター・放)
内田 常夫 西山 章次
(神戸大・放)

^{67}Ga -citrate による腫瘍シンチグラフィーで肺にびまん性集積像を認めた細網肉腫の 3 症例を経験した。3 症例とも細網肉腫の生検診断を受、Linac 照射、VEMP 療法を施行中であった。いずれも ^{67}Ga -citrate によるシンチグラムでびまん性の肺集積像が得られた。

^{67}Ga -citrate の両肺びまん性集積は肺炎の場合にも出現するとの報告をみると、胸部X線像で全肺に網状陰影を認め、肺炎症状を認めたのは第 1 症例のみで、他の 2 症例は肺炎症状もなく、胸部 X 線像でも異常影は見られなかった。細網肉腫の場合に腫瘍細胞が血液中に出現して、白血病化する現象は、白血性細網肉腫として知られているが、3 症例ともこの現象が確認され、肺にも細網肉腫細胞様浸潤が存在したことが想像される。本症例の ^{67}Ga -citrate の肺内びまん性集積は、この細網肉腫の白血化に起因したものと推定される。

しかも、この肺所見は X 線写真よりも早期に出現、描出されており、悪性リンパ腫の肺病変の早期診断に有用な手段と考えられる。

16. 甲状腺 reticulum cell sarcoma の診断、治療計画および効果判定に RI 検査が有意義であった 1 症例

○谷口 健二 福田 照男
浜田 国雄 武内 徹一
越智 宏暢 玉木 正男
(阪市大・放)
須賀野誠治
(阪市大・1外)
内間 恒堅 鎌谷 正博
津田 明子
(ツジ病院)

甲状腺原発の細網肉腫は可成り稀なものであるが、我々は本症の診断、治療計画および効果判定に RI 検査が極めて有用であった一症例を経験したので、若干の考察を加えて報告した。症例：75才の男性、急速に増大する左頸部腫瘍と嚥下困難を主訴として来院。X線検査にて食道、気管の右方偏位を認め、検査所見にて LDH の高値を見る他は異常無く、 T_3 、 T_4 値共に正常範囲であった。甲状腺腫瘍を疑がい ^{131}I 、続いて ^{67}Ga によるシンチグラフィーを行ったところ ^{131}I では右葉中央から下極、左葉中央部に欠損像を認めた。 ^{67}Ga では腫瘍に一致した RI の強い集積を認めた。この 2 つのシンチグラムより Malignant lymphoma など悪性度の高い甲状腺腫瘍を疑がい手術を施行。腫瘍は小児頭大で咽頭部および食道を取り囲む様に発育し、縦隔内に伸展していたためその部を残して切除、甲状腺細網肉腫の組織所見を得た。術後化学療法を始めたが、10 日目頃から再び同部に腫瘍が出現、急速に腫大してきた。 ^{67}Ga 2 mCi 一回投与後経時にスキャンを行い、放射線治療による像の変化を見た。 ^{67}Ga 投与後 72 時間のシンチグラムで照射範囲を決め直ちに治療を開始。 ^{67}Ga 投与 7 日後 (1,000rad 照射後)、12 日後 (1,600rad 照射後) と日を追って明らかに集積像の縮小が認められた。悪性度が高く、Ga が強く集積し、放射線療法や化学療法に良く反応する腫瘍の場合、照射野の決定、治療効果の判定に Ga